



幸田彦左まつり30周年

—そして31年目へ—

幸田彦左まつりとは、天下のご意見番として知られる郷土の英雄「大久保彦左衛門」や時代劇でお馴染みの「一心太助」らに扮した各コミュニティや町内に事業所のある企業の人たちが幸田駅前通りを練り歩く「彦左仮装行列」をメインイベントとしたお祭りです。

平成元年にスタートしたこのイベントも今年で30周年を迎えたことを記念して、彦左まつりの今までの歴史や、大久保彦左衛門についてご紹介します。



幸田彦左まつりの歴史

昭和53年に商工会が商業まつりを創設し、その一環として幸田駅前通りを歩行者天国とした夏の夜店まつりを実施して、以降10年間に渡り継続してきました。

その後、昭和63年に愛知県商工会連合会による「小規模特別推進事業（風おこし事業）」の指定を受けて、地域資源を発掘し地域振興を図るため、幸田町に縁のある歴史上の人物「大久保彦左衛門」のキャラクターを現代にのみがえらせることの提言を受けました。その結果、平成元年から従前の歩行者天国を「幸田彦左まつり」へと名称を変え、彦左仮装行列をメインイベントとする祭りとなりました。

当初は企業参加による仮装行列でしたが、平成4年から町内6学区コミュニティの参加を得て地域一体のイベントとして展開していきました。近年では毎年約3万人の来場者数を誇る、幸田町の夏の風物詩として定着しています。

彦左仮装行列の構成

彦左仮装行列では、8人の配役があります。

- ① 天下のご意見番
「大久保彦左衛門」
- ② 大久保家用人
「笹尾喜内」
- ③ 江戸っ子の魚屋
「一心太助」
- ④ 大久保家女中、太助の恋人
「お仲」
- ⑤ 駕籠の担ぎ手4人



▲左から一心太助、お仲、担ぎ手、大久保彦左衛門、笹尾喜内



▲大久保彦左衛門忠教像

本名は大久保忠教おおくぼただたかと言い、「彦左衛門」の呼び名は通称です。永祿3年(1560年)、岡崎市上和田で生まれました。戦国時代から江戸時代前期にかけて徳川家康に仕えた武将です。

彦左衛門は、三河国額田郡(現在の岡崎市も含む)の地内に2,000石の領地を持つ直参旗本でした。そのうちの約1,000石が幸田町内の坂崎にあったので、

皆さんがよく知っている「たらいに乗っての登城」は、旗本以下の駕籠かごを使つての江戸城登城が禁止されたことに対し、「年寄りや病人など足の不自由な者もいるのに、それをとごめるとは言語道

彦左衛門って
どんな人？



▲『大久保彦左衛門登城之図』月岡芳年・錦絵(日本史探訪17・角川書店編より)

断」彼はそう言つて、大たらいで登城。それを見とがめた役人に一言「たらいは駕籠かごにあらず」と。何とも痛快な話です。

また、こんな話もあります。徳川家康が臨終のとき、彦左衛門に遺言を残しました。「彦左衛門のわがまま無礼を許す。今後將軍に心得違いがあるときは、彦左衛門に意見させよ」「これが「天下の意見番」と呼ばれたゆえんです。

しかしこれらは、あくまで伝説の話です。

彦左衛門の一般的なイメージは、「徳川家への忠義は人一倍、それでいて弱者のためには將軍すらしかりとばす」といった感じではないでしょうか。彦左衛

門の逸話は、『大久保武蔵鑑』や『名將言行録』など数多くの書で伝えられています。それらの記録により、彦左衛門の人柄や経歴は時代が移り変わるにつれて、伝説的な人物として誇張され、講談などの世界で取り上げられるようになりました。これにより、世間から「天下の意見番」として、喝采を浴びるようになったのです。

彦左衛門の遺書に、徳川家および大久保家の経歴を記して子孫に残した一種の家訓書である『三河物語』があります。

「三河物語」は、その中で彦左衛門も述べていますが、本来は自分の子孫にあてて書かれた「門外不出」の書だったはずなのですが、次々に写本され、武士から町民までいたるところで読まれた「江戸期のベストセラー」でした。門外不出と言いつながら、子孫以外が読むことを止めようとしなかった彦左衛門は、むしろ世の中にどんどん広まっていくことを密かに期待していたのかもしれない。

寛永16年(1639年)、80歳でこの世を去つた彦左衛門の墓は、岡崎市の長福寺と東京白金の立行寺たてゆきでらにあります。

ご存じですか？
彦左の商品

現在では彦左衛門を取り上げた商品があります。ユーモラスで可愛い人形に仕上げた「彦左人形」や、彦左衛門の陣屋があつた坂崎地内で醸造されている、香り豊かな焼酎で、彦左衛門のキャラクターが陶器に描かれている「彦左焼酎」などがあります。ぜひ手に取つてみてください。



▲彦左焼酎(左)と彦左人形(右)

参考資料

- ・大久保彦左衛門忠教の実像研究(大津準一編)
- ・原本三河物語
- ・久曾神昇序・中田祝夫編・勉誠社)
- ・大久保彦左衛門「三河物語」
- ・(百瀬明治編訳・徳間書店)

平成30年
7月29日(日)
開催

幸田彦左まつり大盛況！



▲金魚すくいを楽しむ親子



▲彦左仮装行列で駅前通りを練り歩きました



▲幸田文化協会の民謡踊りの披露



▲太鼓や笛の山車



▲荻谷小マーチング隊の演奏



▲子どもたちも彦左や一心太助になりきりました



▲町長も彦左に！



▲彦左セレモニーでのインタビュー



▲祭りを盛り上げ楽しむ人たち

30周年記念イベント

☆男性アイドルグループ「祭nine」のスペシャルライブ

☆幸田産米「あいちのかおり」をお持ち帰り♡

ミッション① ピタッと3キログラム
30秒以内に3キログラム量れたらお持ち帰りできます。

ミッション② カラオケ大会

精密採点で83点、93点、100点を出せたらお持ち帰りできます。

☆姉妹都市の長崎県島原市名物

「かんざらし」試食会

☆記念Tシャツ300着限定販売



▲島原市からしまばらんが遊びに来てくれました



▲お米を3キログラムぴったりに量るミッション

幸田彦左まつり 31年目に商けて

毎年大盛況の幸田彦左まつり。そんなまつりを今後どういうものにしていきたいのかなど、気になるところを大嶽商工会長に聞きました。

Q 今年の幸田彦左まつりはどのような思いで臨まれたのでしょうか？

A 30回目の節目の年ということで、以前から何かを織り込みたいという思いで、催し物もいつもよりブラしました。まつりを盛り上げたいと思ってくださる皆さんに対して、少しでもお応えしたいと思って臨みました。

Q 幸田彦左まつりは、元々、駅前商店街の活気を取り戻すために始まったようですが、今後はどのように活性化させたいとお考えですか？

A 全国の商店街を見ても、にぎわ



幸田町商工会長
大嶽 治郎氏

いを取り戻すための試みを少しずつでも続けていくことが大事だと思えますし、区画整理事業でハード面はできつつありますが、それに付随する上物がどんなものができてくるのか、それは皆さんも期待していることだとは思いますが、商工会としては、駅前のにぎわいはもちろんあります。が、事業者の売り上げも伸びるようになり、町民の商業活動がもっと盛んになるような環境を整えたいと思います。

Q 彦左まつりの今後の展望について、どのようにお考えですか？

A 毎年振り返りながら、今回はどうだったのか、今後どうしていった方がいいのかを考えながら改善してきました。彦左まつりは幸田町民にとって夏の風物詩として定着してきましたし、夜店で一緒に買い物したり、おいしいものを食べたりしているのを見るだけでうれしいです。そういう機会を失わせたくはないですが、人の流れがもう少し分散して、より楽しめるように、趣向を変えながら町と協力していいものを作っていくたいです。

Q 新元号を迎える来年ですが、31年目の彦左まつりに何か新しい計画はありますか？

A 新しいものを始めていくことも

大切ですが、続けていくことが一番大事だと思えます。新しいものを急に始めるよりも、昔からの歴史の積み重ねをし、深みを増していくことの方が大事ではないかと考えています。昔からのいいものがなくなってしまうことは残念なので、あまり大きく様変わりさせたくはないです。時代は変わるけれど、根底の部分、コアの部分は大事にしなから継続していきたいと思っています。

Q 来年の彦左まつりも楽しみにしている人たちへ向けて、メッセージをお願いします。

A 今年は台風で1日遅れてしまいましたが、多くの人にご参加いただきました。来年は天気に恵まれて、さらに大勢の人が来て楽しめるお祭りになってほしいです。



来年の彦左まつりも期待されよ！

問合せ 幸田町商工会

☎ (0546) 62-0120